

だいし7レンズ

////////// 川崎フロンターレ 会報誌発送作業 特集号 //////////

わーくす大師
マスコット
わっぺん



わーくす大師は、障害のある人が働くことを通して自立を目指す福祉施設です。作業をすることで工賃を稼いだり、訓練を積んで就職を目指したりしています。今回は、川崎フロンターレからいただいている会報誌発送のお仕事を特集します。

会報誌が届くまで



1 会報誌やチラシを数えて1組50部の束を作ります。



2 チラシや封筒を1組ずつセットします。



3 会報誌やチラシを1部ずつとって、封筒に入れます。治具を使って、作業台をスッキリさせて、ミスを防いでいます。



4 大切なお知らせの入れ忘れが無いよう、重さをはかって確認をします。



5 しわが出ないように気をつけて封をとじます。



6 結束機という機械を使って、束にします。



7 会報誌を待っている全てのサポーターに届けられるよう、1束ごとにチェックを入れます。

出荷!!

約23,000世帯に送っています



作業室の様子



立ち作業で体力も使いますが、みんな集中して一生懸命作業をしています。



出荷直前の様子。この山がいくつもあります。

POINT

治具について

わーくす大師では、難しい作業も手順をしっかり守れば作業ができるようにする工夫をたくさん行っています。その工夫の中の1つが治具(じぐ)です。この会報誌発送業務では、会報誌やチラシを入れる棚を使用しています。



治具は職員が木の板や段ボールから手作りしています。チラシが取りやすい角度になるよう細かく調整しています。

user's voice

利用者の声

フロンターレ作業で気をつけていること・学んだこと

自分でやりやすいやり方を考えて色々工夫することを学びました。

フロンターレやおうえんするお客さんによるこんでもらう事だと思えます。

ふうとうをおるときにへんなほうこうにまがらないようにきをつけました。

施設で訓練を積んで就職した
卒業生への
インタビュー



藤野 慧祐さん

わーくす大師を利用した時におこなった会報誌
発送の作業は、自分の好きなサッカークラブの仕
事なので、大変な作業でしたが楽しかったです。
特に結束作業が一番印象に残ってます。この作
業を通して、僕はみんなで協力して納期までに仕
事を終わらせる協調性を学んで就職することがで
きました。

給料は、自分のほしいグッズや昼食代、交通費
などに使っています。わーくす大師で工賃を稼い
でいたときから趣味や交通費にお金を使ってい
ることは変わっていません。ただ、わーくす大師
時代よりも収入が多くなったのでより多くお金を使
えるようになりました。フロンターレの応援費用
にも変化があり、フロンターレのシーズンユニ
フォームを自分の給料から買えるようになりました。



職場では、会社で使うチケット
や袋のカット、PC作業、ボルト
のワッシャー入れなどの仕事
を担当しています



工賃やお給料で買い集めた
自慢のサポーターグッズたち

わーくす大師は

川崎フロンターレを応援しています

フロンターレが優勝する度に施設をあげてお祝いをしています。
今年もがんばれフロンターレ!!!



川崎フロンターレへの
メッセージ

いつもお仕事をくださり
ありがとうございます。
これからもがんばって
やって行きます。

シュートをたくさん
いれてください。
ゆうしょうしてください。

たくさん、フロンターレ
できるようにしたいので、
お仕事をふやしてほしいです。

発行元

社会福祉法人電機神奈川福祉センター
わーくす大師

これからもまごころ込めて
サポーターの皆さんのもとへ
会報誌を送ります

わーくす大師では
お仕事の受注も承ります!!

お気軽に下記までご相談ください

☎ 044-277-5444

✉ daishi@denkikanagawa.or.jp